北海道ハボマイモシリ島調査報告

— コシジロウミツバメの繁殖確認 —

Banding research on Habomaimoshiri Island :
New breeding place of Leach's Storm Petrel
Oceanodroma leucorhoa in Hokkaido

佐藤 文 男 (Fumio Sato)

概 略

1987年7月9日、根室市歯舞港沖1.5 Kmのハボマイモシリ島(図1)でコシジロウミツバメの生息確認調査を行った。本島は長さ約450 m、幅約100 m、標高11.4 mの2島からなる無人島で、中央部は岩礁で低く、満潮時には徒歩不可能となる。島には樹木は全くなり、ハマニンニク、ヨモギやエゾニュウを中心とした高さ1 m程の密な草原となっている。また、最も標高の高い島の西南部にはイソモシリ燈台がある。

コシジロウミツバメの国内における繁殖は北海道の友知島において可能性がありとされるものの(環境庁, 1978)、繁殖が確認されているのは大黒島のみで、他の報告例はない。ただし、標識調査においては宮城県の足島、岩手県の三貫島、日出島、北海道モユル島で少数が捕獲されており、今後その繁殖が確認される可能性は高い。ハボマイモシリ島には昼間(10:00~12:00 a.m.)上陸し、生息調査を実施した。

以下に当日、島で観察した鳥種とその生息状況を示すとともに、標識調査結果を掲げた。

なお、本調査には高田勝、尚子御夫妻他、小山均、石本あゆみの各氏も参加され、御協力をいただいた。さらに、同年7月26日~27日、高田勝、近藤憲久両氏が再び入島し夜間調査を実施した。この結果、コシジロウミツバメの成鳥100羽、オオセグロカモメの雛50羽、クイナの雛1羽の、計3種151羽を捕獲し、標識放鳥した。この調査では他にも数多くのコシジロウミツバメの夜間飛来が確認されている。

図1. ハボマイモシリ島 Fig. 1. Habomaimoshiri Island.

鳥類生息状況（1987年7月9日）

1. コシジロウミツバメ *Oceanodroma leucorhoa*

燈台周辺及びその東側のほか小島の東側のハマニソク、ヨモギ、エゾニュウの草むらに巣穴を多数観察した（推定約200巣）。このうち約50巣ほどに手を入れ、巣穴内を確認した結果、抱卵中の成鳥を11羽確認し、うち9羽には標識を付し巣穴にもどした。

本島での繁殖状況は大黒島に比較すると、巣穴が平均的に浅い印象を受けた。これは本島の地面が砂質の土壌のためと考えられる。また、巣穴の分布は5～10巣程度ずつかたまっていることができ、明らかにパッチ状に分布していた。

2. ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*

島の南側沖の岩礁に休息している20羽以上を観察した。2歳齢と考えられる羽色の淡い個体が多かった。

3. オオセグロカモメ *Larus schistisagus*

島内全域に多数が営巣していた。繁殖状況は抱卵中のものが多く、一部の巣でやっと雛が孵化しはじめたところであった（推定数200～300巣）。

4. ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus*

燈台近くの北側斜面の土の穴で2卵を抱卵中の1羽を捕獲し、標識後再び巣にもどした。なお、2卵はすでに卵にヒビが入り孵化間近と思われた。ウミスズメの根室半島部における繁殖確認は初めてである。

5. ケイマリフ *Cephus carbo*

古い船着場近くで餌（小魚）をくわえて海上から飛来した2羽を観察したが、人を警戒してか巣に入らず、巣の位置は確認できなかったが、繁殖しているものと考えられる。

6. クイナ *Rallus aquaticus*

島内の2地点で声を確認するとともに、1カ所では姿も確認した。繁殖の可能性が高い。

7. ウトウ *Cerorhinca monocerata*

太平洋側の海上に数羽を観察したが、島内でウトウの巣穴と考えられる穴は発見できなかった。

8. ハクセキレイ *Motacilla alba*

島の北側の浜で2羽を観察した。繁殖の可能性あり。

標識調査結果（1987年7月9日）

1. コシジロウミツバメ <i>Oceanodroma leucorhoa</i>	9羽
2. オオセグロカモメ <i>Larus schistisagus</i>	2羽
3. ウミスズメ <i>Synthliboramphus antiquus</i>	1羽